報告

「さようなら下関市体育館解体現場見学会」報告

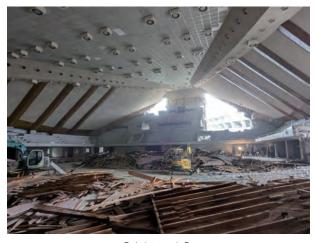
青年部長 中山 怜

みなさん、こんにちは。青年部長の中山です。 この度は、10月19日(土)に下関市で行われま した現場見学会の報告を致します。

今回の見学会は、旧下関市体育館の解体現場を 見学する企画で解体中の現場を見学する初めての 試みでした。参加者を募るうえでどこまでの関心 が頂けるかと少々不安でしたが、メディアの方も 含め40名の方に参加頂きました。北は青森県弘 前市、南は長崎県佐世保市、他にも他県からかな りの方が参加下さいました。こちらの下関市体育 館は、構造家の坪井善勝氏の手掛けられた唯一の 作品であることは有名で、3つの屋根面は細長い 二等辺三角形の上部屋根と2枚の側面屋根から 成っており、2つの側面屋根は前面の傾斜した2 本の柱から一つの数式で表現できる変形双曲放物 面を描きながら、背面で逆反りとなって終わると いう特徴的な外観を持っており、その曲面を持つ 屋根は、屋根材として30cm角のアルミ板で葺か れています。



【建物正面写真】



【内観写真】

1963年に竣工後61年間の役目を果たし今年9月より惜しまれつつも解体することになりました。



【解体現場の様子】



【美しい側面屋根】



【施工者による解体方法のレクチャーの様子】

見学会には、坪井先生を師事されていた構造家の斎藤公男先生も参加頂き、下関市体育館建設当時の思い出について語って頂く講演会を行いました。斎藤先生からは、当時 11 ケ月と言うかなり短い期間で建設しなければならない難工事を担当

された苦労話や思い出話をされていました。質問では屋根について屋根仕上げ材がアルミ板になった経緯やアルミ屋根材の見事なグラデーションは 偶然の産物だったと言う貴重なお話をして頂きました。斎藤先生にとってこの下関市体育館は思い 出深い作品だったと改めて思いました。



【下関市体育館への思いを語る斎藤先生】

斎藤先生が言われていた言葉に『建物は、建つときは地鎮祭や上棟式と人が集まり祝ってもらう。しかし、無くなるときは囲いに囲まれ気づけばいつの間にか解体されている。建物も人間と同じようなもので葬式のようなものがあったり、皆に看取ってもらってもいいのではないか』とありました。自分自身も同感でした。長年地元に愛されてきた建物が無くなっていくのは、やはり寂しいものです。私個人としても小さな時から体育館をよく利用してきましたので、今後、見られないと思うと残念でなりません。



【既存体育館アルミ屋根材の再利用する説明】 既存屋根材を新総合体育館のエントランスホールに再利用するため慎重に撤去し、丁寧に洗いその後再加工し、一枚ずつ色見を確認しながら張ったそうです。現場は、大変な作業だったと思います。

今回の見学会は、今しかできないと言う思いか ら踏み切りましたが、開催した結果、参加者それ ぞれが、各思いを持って集まってもらえていたこ とが分かり開催して良かったなと思いました。参 加者の中には、下関市新総合体育館のエントラン スホールに既存体育館のアルミ屋根材を利用する 計画の考案者もいまして、当時の思いや行政との やりとりで尽力したことも知りました。ちなみに この考案者さんは、見学会のために大阪府から来 られたそうです。また、青森県の方は学生のころ から下関市体育館を研究されていたようで見学会 の話を聞いて『このタイミングを逃したら二度と 見ることができなくなる。これは行くしかない!』 と思って急遽下関へ来たそうです。その熱意に感 銘を受けました。いつかは人も建築物も世代交代 をしていくものかもしれませんが、やはり偉大な 作品がなくなるのは悲しいものです。この日は、 参加者との別れを惜しむように視察中雨が止みま せんでした。



新総合体育館内には、旧下関市体育館のメモリアルコーナーを設けているので、時間がある時にでも立ち寄ってください。

